

大森学園高等学校

『グループコミュニケーション学習』レポート

公開授業見学会



グループ・コミュニケーション学習

会場：大森学園高等学校
開催：2012年11月21日(水)
15:25～16:15
終了後：意見交換会／インタビュー

大森学園高等学校(私立・全日制・共学)

住所 143-0015 東京都大田区大森西3丁目2番12号

電話番号 03-3762-7336

Web <http://www.omori-gakuen.ed.jp/>

大森学園高等学校

社会に貢献できる有為なる人材を育成

大森学園は「社会に貢献できる有為なる人材を育成する」という建学の精神を基に、人や社会とのつながりを大切に、たくましく生きる力と他者を思いやる心をそなえた人間の育成に力を入れている。また、様々な学園生活を通じてコミュニケーションの大切さを教育している学校である。



11月21日(水)に全学年(26クラス)によるグループコミュニケーション公開授業が行われました。当日はオリジナル教材を使用した3年G-1クラスの授業を見学させていただきました。

『安楽死制度を導入すべきか』というテーマの教材を担当の先生自ら作成され、ディベート形式で授業が展開されていました。予めクラス内でA～Hにグループ分かれて予選が行なわれていた模様で、当日はその予選を勝ち進んだAグループ対Fグループによる討論が繰り広げられていました。

- ディベートの流れ
1. 肯定側立論(3分)
 2. 否定側立論(3分)
 3. 作戦タイム(5分)
 4. 否定側反対尋問(2～3の質問を一問一答形式)
 5. 肯定側反対尋問(2～3の質問を一問一答形式)
 6. 作戦タイム(5分)
 7. 否定側最終弁論(3分)
 8. 肯定側最終弁論(3分)



＝ディベート後に記入する判定表＝

傍聴人役の生徒が肯定側・否定側それぞれの討論内容を5段階で評価

3G1 ディベート 判定表		
2012年 月 日(水) 7限		
判定者 氏名		
1. テーマ		
2. 肯定側メンバー		
3. 否定側メンバー		
		5段階評価
評価の項目	肯定側	否定側
立論		
1. 立場や主張は明確であるか		
2. 根拠や理由を一つ一つで慎重性をもたせているか		
3. 話し方(声の大きさ・態度など)や態度は素敵か		
4. 決められた時間を有効に使っているか(3分)		
質疑応答		
5. 質問は適切な内容であるか、相手の立論を的確に叩き出すか、返答がスムーズか		
6. 応答は質問の内容に十分なものか		
作戦タイム		
7. 作戦タイムを有効に使っているか、チーム全員が参加しているか		
8. 主張は変わっていないか		
最終弁論		
9. 質疑応答をふまえて、立論での主張を補う内容であるか		
10. 話し方(声の大きさ・態度など)や態度は素敵か		
11. 決められた時間を有効に使っているか(3分)		
チームワーク		
12. チーム全員が発言の機会をもち、考えているか		
総合評価(合計点)		

試演の立場
 1. 肯定側 2. 否定側 3. どちらでもない 4. 不明 5. 不明な立場
 観望の立場
 1. 肯定側 2. 否定側 3. どちらでもない 4. 不明 5. 不明な立場
 総合評価
 1. 大森校以外 2. 大森校内 3. 不明



プロジェクターを使用した発表(弁論)などもあり、難しいテーマであるにも関わらず積極的な姿勢が見られました。また、グループ代表のみならずクラス全員が参加し、真剣に取り組んでいる様子が伺えました。

意見交換会

公開授業後に意見交換会が行われました。 ※以下、議事録(抜粋)



本日はお越しいただきありがとうございます。

普段このような授業(例えばディベート)を見る機会はありませんが、良く話を出来る生徒と遠慮しがちな生徒の差があるなと感じました。自分の考えを肯定と否定、それぞれに徹するということがまだまだかなと思います。しかし、回数を重ね繰り返し行うことで、自分の意図することが伝えられるようになっていっていただければと思います。

畑澤 正一先生【大森学園高等学校 校長】

上の階より順番に見学したのですが、それぞれ先生方の特色が出ていて勉強になりました。中でも特に3年G-1組のディベートが本格的で驚きました。作戦タイムを設けたり、プロジェクターを使用したりと生徒のためにもなる授業だったのではないかと思います。本校ではまだディベートは取り入れてないですが参考になりました。

藤田 俊先生【自由ヶ丘学園高等学校】

本校の場合、担任が全員でやるということが難しく、総合学習の時間を使って各担当が同じ共通理解でやっている状態ですので、担任の先生がこの教材を使い何をすれば良いかということを理解して取り組まれている点は凄いと感じました。各担任の先生によってグループ分けをするタイミングが違ったり、説明を一生懸命されている先生もいらっしゃれば、最初からグループに分かれて話し合いをさせたりやり方も様々でしたので、同じテーマであっても各クラスで結果も違ってくるのかなと感じました。ただ、ホームルーム(50分)という時間の中で行うと、どうしても時間の制限がありますので、このグループコミュニケーション専用の時間があればより深い授業の内容になるのではないかと思います。

立石 真弓先生【自由ヶ丘学園高等学校】

グループワークにしてもディベートにしても色々なゴールがあると思うんですね。生徒がどのように展開していくのかを教師が見守ったり、なるべく方向修正をしないように方法論だけを導いてあげるようにしています。その為には私たち教師も教材の研究をし、色々な引き出しを用意しておかないと対応出来ないのでは、担任の先生だけでこれらを扱うとなるとやはり限界があるのではないかと思います。本日見学させていただいた中では3年G-1クラスは生徒がディベート自体を楽しんでいて、そこまで到達している様子が伺えましたので素晴らしいと思いました。また1年生もディベートのスタートラインの様子でしたので、肯定なのか? 否定なのか? と行ったり来たりするようなどころが見られ、生徒はそれをも楽しんでいる様子でした。

端山 淳子先生【自由ヶ丘学園高等学校】

3年G-1組の本格的なディベートを見学させていただいたのですが、非常に良くまとまったクラスだなと思いました。ただ、もっと時間があればさらに凄いやり取りの内容が見られたかも知れませんが、年に10回のホームルームの時間だけでは勿体ないと感じました。全クラスは拝見していませんが、やはり担任の先生によって取り組み方、また温度も違うのだなと感じました。

藤牧 朗先生【目黒学院中学高等学校】

皆さんにお褒めの言葉をいただきました3年の普通科G-1ですが、ディベート自体は2年生の頃から導入し、当初は教材通りに行っておりました。今回は担任の熱意によりオリジナルの教材を作成し、独自の授業を展開していました。

伊能 隆晴先生【大森学園高等学校 3年学年主任】



大森学園では今回初めて公開授業を行っていただきました。本当にありがとうございました。

私はどの学校に行っても“生徒の顔つき”“生徒と先生の関係性・雰囲気”“校内の整理整頓”という3つに注目するようにしています。感想として大森学園さんは非常にレベルが高いと感じました。先ほど授業の始まる前ですが、生徒さんとすれ違った際に立ち止まって挨拶をしてくれました。やはり日頃からの先生方の指導が一人ひとりに伝わってきているのではないかと関心しております。

元々、私がグループコミュニケーションを提案したポイントというのが『コミュニケーション能力』といった部分でした。現在、社会や企業が求める能力というのが4つあり、やはりその1番は『コミュニケーション能力』です。2番目が『チームワーク力』そして3番目が『主体性』、4番目が『粘り強さ』なのです。つまりこの4つの中で最初の2つというのは、グループコミュニケーションを通じて彼らの能力を高めることが可能なのではないかと考えております。やはり『ひとつの事をみんなで話し合い、結論を導きだしていく』という手法は会社に入ってからでも凄く生きていくと思います。

卒業までの最終到達目標を明確にした中で、1年での目標はココまで、2年での目標はココまで、というような取り組みを今後行なっていかれると今以上に生徒も成長されるのではないかと感じました。折角あんな素晴らしいものがこの学校の中で生まれてきているので、例えばビデオ等に記録されて「大森学園はこうにして子供たちを育てていますよ」というようなひとつの集大成を広報あるいは外部の方にも披露されれば良いのではと感じました。

菊地 淳【KA 教育】

私自身はこれまでも他校さんの見学には行っておりましたが、本校での試みというのは初めてでした。実は1ヵ月程前にこの公開授業が決定し、各教員も戸惑っていたようですが、やはりこういった事が決まれば各自が真剣に取り組むので必要なことだと感じました。

和泉 隆先生【大森学園高等学校】



Interview

和泉先生に『グループ・コミュニケーション学習』に関するお話を伺いました。

◎学校の紹介

本校は前身が大森工業高等学校ということで創立 70 周年を迎えたばかりです。大田区という地域柄、町工場が多いところでしたのでその社長さんたちが相談し合いをしながら、後継者を作るといって始まった学校であります。どちらかという就職する生徒のために社会に出て役立つ人間を作ってきたということだったのですが、10年程前に進学にも対応できるようにと普通科を新設し、校名を大森学園と改称し共学校となりました。現在は全校生徒 950人で内 1 割が女子となります。

◎3D 教育プログラム導入の経緯

導入は平成14年になります。それ以前、本校では某社の“心理テスト”というものを行っており、診断のデータまでは出のですがそれを活用することが難しく、何とかデータを活用出来ないかと模索していたところ KA 教育の 3D 教育プログラムを紹介していただきました。心の教育を一貫されていたので採用させていただきました。

◎グループコミュニケーションの実施状況

◆実施の頻度

年間で 10 回を目標に計画を立てています。

◆どの時間で実施されているか

水曜日の 7 時限目が LHR(50分)で実施しています。

◆教材の選択の仕方

各学年とその時期で旬な内容のものです。

例えば 3 年生でしたら就職前に言葉遣い、1 年生でしたらいじめ問題やマナー教育にまつわるものです。

◆実施の目的とは

大きい集団だとなかなか発言できない生徒も小さい集団になると自分の意見が言えます。そして人の意見も聞き、自ら発表するといった機会を与えられることです。

例えば工業科の生徒の就職試験に関していうと、(必ずしもそうではないですが)学校で良しとされている大人しくて授業も黙って受けていて悪い事もしないというような子ども達は比較的落ちる傾向にあり、逆に自分を表現し友達とも活発に話すような子どもはどんどん就職に受かっているという現状です。一般的に学校で教育されていることは、実は社会では必要とされていないということに気付かされています。大学進学とは違い企業はシビアだなと感じますし、ですからもっと自己表現する力というものを 3 年間教えていかなければならないと思います。

◎グループコミュニケーションに取り組む生徒の様子

楽しんで取り組んではいますが、一番問題なのは先生が生徒をしっかり導けるかどうか。クラスによっては生徒がほんとにイキイキしていますし、逆にクラスによっては雑談ばかりして全然授業に集中出来ていなかったりだとか…。クラスの担任の導き方によって差があるのかなと感じています。



大森学園高等学校 和泉 隆先生

◎教員の取り組み

教材の資料が各担任に配られるのが 1 週間前なのですが、先生によってはその 1 週間の空き時間の中で色々な事を調べ事前学習をし、生徒に興味を持たせるような様々な工夫を行っており、そこですら差が出ます。50分の授業の中でその内容部分においてはそこまで差は生じませんが、差が出てくるのは終わってからの振り返りの時間です。生徒が感想を書いて、それに対しちゃんと応えるということを行なう先生もいれば、やらせっぱなしで最後はこうやってまとめて終わる先生もいます。やはり大事なことはグループコミュニケーションが終わった後に生徒に感想を書かせて発表させるところまで行かないと、ただの話し合いで終わってしまいますので、やはり、先生による最初と最後が肝心です。

◎現状の課題

最近は先生同士あるいは人とのコミュニケーションが欠けていると感じます。保護者とのトラブルに関してもそうですし、コミュニケーション不足や不信感といったものは人の対応能力に欠けているという点です。それは対生徒にとっても同じでコミュニケーションが取れないと、離れていき、気持ちも繋がりませんので。

このグループコミュニケーションというものを必要だと思っている先生は一生懸命やってくれますが、自分の中でやらされている感覚がある先生はマニュアル通りになってしまいますので、その差は大きく感じます。

◎最後にひとこと

近年は進学中心になりましたので、学校も先生も生徒も以前とは少々違う感じにはなってきましたが、社会からみると大事なのは、まず“遅刻しない”“欠席しない”ということ。そして“チーム力”や“コミュニケーション能力”だと思うのです。クラブ活動をしている生徒は自然と色々な場面で覚えていくと思うのですが、クラブ活動をしていない生徒も半数おりますので、そういった生徒たちにこういった授業を通じて機会を与えられたら良いと思います。勉強だけではなく、こういったことを高校時代にさせておくことが重要だと考えています。

一番大事なのは生徒達に自分の学校を好きになってもらうということ。卒業後にも自慢できるような、そんな学校にしていければと思います。

出来る・大丈夫・大成功

3D 教育研究会

2012.11.21 3D教育研究会 公開授業見学会 in 大森学園高等学校

株式会社 K A 教育

〒1730012
東京都板橋区大和町 12-12
03-6784-7675